

沖縄戦の教訓を軍事基地のない社会のために！

—島田知事賛美の映画と第32軍司令部壕保存公開活動を問う—

今日の沖縄社会の出発となった「沖縄戦」から77年。いわゆる「復帰」から50年になる沖縄の現状は、周知のとおり、日米安保による米軍基地の精鋭化がすすみ、同時に、沖縄の島々を再び戦場にするを前提とした自衛隊による軍事基地化がすさまじい勢いで進行しています。

それと同時に、「沖縄戦」が沖縄の人びとにもたらした教訓——「軍隊は住民を守らない」「軍事基地は真っ先に攻撃対象となる」が、私たちの足元から崩れつつあるようにみえます。この数年とくに目立つものとして、沖縄戦で軍人以外の住民をも根こそぎ動員した当時の沖縄県首脳、島田叡知事を賛美する映画「生きろ」が昨年上映され、来月には島田叡知事に加え荒井退造警察部長も賛美する映画「島守の塔」が公開されます。それともうひとつ、現行の第32軍司令部壕の保存公開活動についても、「ありったけの地獄を集めた」沖縄戦の教訓の継承の点から、問われるべき点が大いにあるように見受けられます。

私たちが沖縄戦について学習する一番の意味・目的は、これほどまでに長く基地社会を成り立たせている「元凶」を取り除くことに結びつくものであるはずですが。戦争の恐ろしさと、基地あるがゆえに起こるおぞましい事件・事故を心身に刻み込んで戦後の沖縄を生きてきた私たちが、いまほど沖縄戦の教訓の継承の在り方が試されているときはありません。メディアの役割と責任の大きさはあらためて申すまでもありません。

ともに考え、そして行動するために、ぜひ多くの方々のご参加をお願い申し上げます。

日 時：2022年6月19日（日）午後2時～5時30分（午後1時半開場）

場 所：沖縄県立博物館・美術館（1階・博物館講座室）

登壇者：宮城ヨシ子（沖縄戦体験者）
新川 明（ジャーナリスト）
川 満 彰（沖縄戦研究者）
友知 政樹（沖縄国際大学教授）
伊佐 眞一（沖縄近現代史家）
比嘉 豊光（写真家・司会）

資料代：500円（両問題に関する当事者が執筆した新聞などの資料）

★コロナウィルス感染防止のため、検温とマスク着用をお願いします。

【主 催】『N27』（「時の眼—沖縄」批評誌）編集室

【連絡先】090-8292-1398（比嘉）